

1 学校教育目標
(1) 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む (2) 道徳性と豊かな情操を育む (3) 心身の健康を自己管理する態度を養う

2 本年度の重点目標
<p>【確かな学力・自己実現を図る態度の育成】</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育む。 (2) 学習習慣を身に付けさせ、教育的ニーズに応じた個別支援を行う。 (3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路指導を行う。</p> <p>【道徳心と豊かな情操】</p> <p>(1) 命を大切にすることを育み、自他の大切さを認める態度を養う。 (2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を育む。 (3) 我が国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。</p> <p>【心身の健康の自己管理】</p> <p>(1) 正しい食習慣と生活習慣を身に付けさせる。 (2) 運動に親しむ態度を育み体力を向上させる。 (3) 危険を予測回避する力を向上させる。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	三課程 (全定通) 運営と学校経営の整合性を図る	本校のスクールアイデンティティが三課程で共有化されているか。課程間の情報交換が継続的に図られているか。より良く改善が進められているか。	教務・進路・生徒指導部の情報の共有化と連携の強化を図る。三課程での研修の充実。	三課程教頭会を定期的に実施する。3課程年間研修計画を作成する。	B	三課程が情報の共有化を図り、連携して業務を行うことができた。特に地震災害復旧工事に伴う教室の移動等においては、会議室等の使用など多少のトラブルはあったが、なんとか乗り切ることができた。
	適応指導の充実	学年及び関係する分掌部が連携して具体的な取組が進められているか。	新入生への年間を通じた、適応指導の充実。1年生の転学・転籍・退学者数割合 12%以内。	適応指導委員会が実施する、アンケート結果を指標として学年や各分掌部が、それぞれの取組を、評価・改善する仕組みを作る。	B	新規に適応指導委員会を立ち上げ、3年間を見据えたシラバス作成にとりかかっている。軌道に乗るまでに時間がかかり、次年度は現体制を中心にタイムリーに行っていきたい。
学力向上	アクティブ・ラーニング推進のための指導方法の工夫と改善	アクティブ・ラーニング型の授業の展開が図られているか。	アクティブ・ラーニング型授業の展開を意識して実践する職員の割合 80%以上を目指す。	校外で実施されるAL研修への職員参加、及び参加職員による復講研修を実施する。各教師AL授業の実践について、報告書に提出する。	B	毎日お互いの授業を見せ合う授業チェックシートの活用を企画したが定着できなかった。検討し継続していきたい。各教師は独自のスキルで授業を試行しているので、教科間でお互いの授業力を高めようにつな

						げたい。
		思考力・判断力・表現力が育まれているか。	生徒が自ら考えたり表現したりする活動割合の向上。	公開授業・研究授業を活用して教科の枠を越えて職員同士が互いに学ぶことのできる授業参観を促進する。	C	公開授業週間では県教育センターの指導を受けながら内容の濃い研究授業の実践ができつつあるが、公開授業を活用して教科の枠を越えて職員同士が互いに学ぶことのできる授業参観を促進できなかった。 来年度は、公開授業を外部に公開するなどして、各自の実践を検証したい。
	学びのUD化	特別支援教育の観点から支援を必要とする生徒に配慮した授業ができてきているか。	生徒が授業に集中できるような授業の運営、工夫をする。	授業での支援を必要とする生徒への配慮について、授業担当者に実践事例を提出してもらう。	B	詰め込み授業から脱して、多様な生徒に応じた授業スタイルを各自工夫されている。しかし、実践事例提出は、1月末現在は少ない
	豊かな心を育てる教育の推進	各教科で「命を大切にすることを育む指導」がなされているか。	授業及び学校行事等の場面で、生徒が生き生きとした活動ができる	生徒の現状把握のため適応指導の実態アンケートを行い、早期の指導に生かす。適応指導の改善に向けた会議により現状把握と改善を行う。	B	文化祭では、生徒たちが中心となり積極的に活動できた。11月に行われた芸術鑑賞では生徒は本物の舞台芸術に触れ、感動する生徒が多かった。 行事の確保や、LHRの活用などクラスでの活動時間を十分に確保していく必要がある。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の推進	望ましい勤労観・職業観が育成されているか。	進路講話・職場見学・企業人との交流を通して、具体的なイメージを持った職業観を形成する。	職業安定所等の外部機関が主催する事業の積極的な活用、キャリア意識を育てる校内の取組とを有機的に連動させて、実施する。	B	進路講話・企業との交流会・公務員との交流会・外部講師就職面接指導・お仕事探検フェアを通して具体的な職業観を養成する機会を設けた。さらに事前指導で意識を高めたい。
			インターンシップを通して働くことの意味や意義を考え、望ましい勤労観を形成する	マナー講座等の事前指導、事業所との事前の打合せや礼状の送付等を含め、活動の全体で大きな学びが得られるようにする。		

						やまとめなどの事後指導を通して、就業体験を含めて多くの学びができた。実施日が悪天候の場合の出欠の確認等を決定しておく必要がある。
			職業レディネステストやライフプランセミナーを通して、望ましい職業観を形成する。	自己の特性を知り、業種・職種を理解や進学・就職の選択について理解を深めつつ、人生と仕事について調べさせる。	C	1年生の総合的な学習の時間に、自己理解を促進させた。一方、ライフプランセミナーが開催できず、将来設計に関する活動が不足した。
進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標の早期設定を促す。	二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種調査結果などを活用して生徒の自己理解に生かす。		B	進路希望調査から担任や進路部の面談へと生徒自身の興味関心を把握することができた。今後適切な情報提供やアドバイスができるよう各学年部と連携を図りたい。希望と現実のギャップを埋めるためのその手立てを知る機会をつくる。検討会後のサポートが不十分で個に応じた、指導の工夫が必要である。
		基礎的な学力の向上を図るとともに、進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、進路選択の幅を広げる。	学びなおし教材（マナトレ）を1年生の授業で活用する。模試・進路のしおり・進路情報誌・進路ガイダンスなどの活用を進める。キャリア別終礼・進路検討会等を定着させる。		B	国数英の3教科で学びなおしが実施された一方で、その定着度を生かす取り組み基礎学力向上につなげた。各種の進路情報の提供は適宜行うことができた。担任への情報提供から面談、さらに充実した生徒の進路学習につなげていきたい。受験後のやり直しが十分にできていない。生徒の学習状況を把握していく必要がある。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒が健全に社会に適応できる生活をしているか。	自主的に健全な整容を心掛けるよう指導	学年間の指導内容に差が生まれないよう整容検査内容のマニュアルの活用を行		昨年度までに比べると、検査不合格からすぐ改善に取り組む生徒の割合が増えた。整容指

				う。検査結果を共有化するために文書セキュアを活用してデータ管理を行う。	B	導カードの効果があった生徒もいるが、一部の生徒への指導方法が今後の課題である。また、再検査の日程調整ができていない。また、朝SHRで服装をある程度確認し、注意を促すことが必要である。整容検査だけでは、改善は見込めない。
	理性的態度と道徳的実践力の育成	規範意識の高揚、友愛・連帯の精神を養おうとしているか。	学級や委員会活動・部活動など集団生活の中での責任と、人間形成の指導。委員会活動を年3回以上実施する。	委員会活動を3回以上実施することで活発化を図る。	B	交通委員を除き、委員会活動が積極的であった。年間活動の見直しと生徒への徹底した連絡が必要である。活動の機会を定期的に設けていく。生徒会執行部は責任をもって仕事をするようになった。
	自他を尊重し、互いに協力する態度や遵法精神の育成	生徒同士が互いを尊重し、協調しながら生活することができるか。	非行事例の減少といじめ解決100%を目指す。	SNSを中心に情報モラル、情報マナーについての指導を継続的に行う。早期にいじめを認知できるように機会あるごとに声かけ指導を行う。	B	いじめの早期発見・対応ができており、いじめと訴えのあった事例はほぼ解決されているものばかりとなった。 年度初め、長期休業前にはSNSを中心に情報モラル、情報マナーについての注意を促す時間を必ず確保していく必要がある。
	交通安全意識の確立、交通法規の理解と交通マナーの向上	交通事故・違反が減少したか。無施錠自転車減少したか。	事故違反件数を減少させ安全運転意識の向上を図る。二重ロック100%。	交通安全教育の自校実施と交通委員会の活動の充実を図る。二重ロック及び無許可自転車指導を徹底する。	C	交通安全教育を2回実施することができた。交通委員の活動として、自転車のステッカーの点検を3回行った。今後、生徒の意識向上のためにも交通委員の活動の中に二重ロック点検を位置付け、定期的な取組実施を検討する。
人権教育の推進	研修の充実と職員の人権意識の高揚	教育の根幹に人権尊重を捉え、すべての教育活動において人権教育の推進ができるか。	教職員が人権尊重の理念を理解し、全ての教育活動において推進できる体制づく	計画的な研修による学び合いを通して人権意識の高揚を図り、人権尊重の理念についての認識	B	校内研修は時機を捉え、計画的に実施できた。職員一人年1回以上の校外研修に参加できた。

		ているか。	りや研修の実施。（一人1回の校外研修参加）。	を深めるとともに実践的な指導力を育む。		教育実践を共有して、実践的指導力の向上につなげることができた。意見交流の十分な時間確保が課題である。
	人権の重要課題の学習	人権課題を自分の問題として考える学習になっているか。	これまでの積み上げを踏まえつつ改善を進め、生徒の主体性を育む人権教育LHRの推進。	係（推進委員や学年の係）を中心に、当該学年の全職員が組織的に取り組める指導案を作成する。意見交流を通して、学びを深めるLHRの実施。	C	担当者を中心に各学年でLHRの運営を行うことができた。意見交流を中心とした参加体験型授業で自他の意見を尊重して学習を深められた。時機を捉えた効果的な実施が必要である。
	命を大切にすることを育む指導	人権尊重の精神に立った学校づくりが推進されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権が尊重される授業づくりの推進 ・人権が尊重される人間関係づくりの推進 ・人権が尊重される環境づくりの推進 	生徒が多様な学びの中で自他の特性を自覚し、主体的に学習に取り組める授業の工夫・改善を行う。（生徒理解研修）共感的人間関係を育成する支援の推進（面談・家庭訪問）人権尊重の雰囲気が醸成される環境づくりの推進（人権作品応募）	B	中学校訪問と生徒理解研修を計画的に実施し、共通理解を深めることができた。人権週間に、図書館と協力して人権教育啓発コーナーを設置し、啓発活動を行うことができた。生徒の人権作品や啓発資料の掲示を工夫して、効果的に人権意識の涵養を図る環境を作る必要がある。
いじめの防止等	いじめ防止対策委員会を核とした職員間の連携	学級・学年・各部署・各段階における連携が成されているか。	いじめ防止対策委員会での連携を密にし、情報の共有を行い、未然防止を図る。	いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り、全職員で共通理解と防止に取り組む。	B	いじめ防止対策委員会と連携を密にして、学年と情報の共有を行っており、今年度については重大な案件は生じていない。しかし、心のアンケートで対象者を早く把握するなどの反省点はある。
教育課程	単位制の特徴を生かした教育課程の検討	生徒目標達成のためのカリキュラム編成を十分支援できているか。	生徒一人一人の特性や進路目標を踏まえながら、前向きな進路実現へ向けたカリキュラム作成を促進する。	具体的なカリキュラム編成例を記したcompassを活用したカリキュラムガイダンス（説明会）の実施及び個人面談による相談を充実する。	B	計画的にカリキュラムガイダンスを行い、生徒各自の将来の目標にあわせたカリキュラム編成を行うことができた。

		社会の変化、進路の多様化等に対応するカリキュラムを広く検討できたか。	大学入試、教育課程等の教育改革に対応するカリキュラムの基本的な枠組みを作成する。	日々変化する教育改革の動向と生徒の実態を踏まえて、また、平成30年度から実施する「通級による指導」のカリキュラムを検討する。	B	平成30年度から実施する「通級による指導」のカリキュラムを検討し完成することができた。次年度からは新学習指導要領を見据えた大学入試や教育改革に対応するカリキュラムを検討していく予定である。
心身の健康	望ましい食習慣と生活習慣の定着化を図る	自分の食習慣や生活習慣に関心を持ち、行動できているか	自分の食習慣や生活習慣を見直し、積極的に改善する力を付ける。	生徒の実態把握を実施し、自分の生活習慣を見直す機会を作るとともに、生徒が主体的に関わる行事を計画する。	B	7月に食生活や睡眠についての実態把握アンケートを実施した。それをもとに健康リズムや保健便りを通して健康と食事生活習慣について啓発活動を行った。放課後キッチンでは生徒同士協力して取り組む態度が養われ、調理の楽しさや一緒に食事を楽しむことができていた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	熊本地震を教訓として、災害時の地域との連携体制の構築や防災教育の充実	学校運営協議会を通して、関係機関と連携しながら、防災対応について整備が進むとともに、防災教育の充実が図られているか。	生徒及び職員の防災対応能力を向上させる。また、保護者や自治体と連携した災害時対応マニュアルを策定する。	学校運営協議会を開催し、各委員に御意見を伺いながら、地域防災や防災教育についての取組を充実させる。避難訓練の実施回数を増やして生徒の防災意識を高める。	A	避難訓練においてはスモール訓練を導入し、2次避難までの流れを複数回行い、防災意識を高めることができた。また、ぼうさい通信を発行することで、いろいろな災害についての知識の習得を促した。防災に関しては、生徒の意識の向上が必要であり、取り組む姿勢についてもこれからも指導していかなければならない。
	開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	積極的な情報発信に努め、「地域に開かれた学校作り」に努めている」の評価で90%以上を目指す。	湧水(学年広報誌)を毎月配布する。体験入学や中学校説明会を充実する。中学校訪問を充実する。学校HPを定期的に更新する。	A	学校HPの更新を定期的に行うことができた。充実を図るためには、総務部だけではなく各学年・教科からの情報提供が必要であると思う。毎月、湧水を発送し学校の行事・生徒の様子などを連絡

						している。郵送物を確認されない保護者もいらっしゃり連絡が伝わっていない。安心メール等でもホームページ更新の件、湧水発送の件について配信する。
		地域社会に貢献する態度が育っているか。	生徒会主催の学校行事で地域の方々へ案内を出し、学校に足を運んでいただく。	生徒でポスター等を作成し、学校周辺地域に配布する。	A	今年度は生徒会で体育大会や湧心祭のポスターやパンフレットを作成し地元の方々への広報活動に努めた。

4 学校関係者評価
<p>(1) 保護者会との連携や情報共有が足りない。保護者会は学校と協力していきたいので、前もって情報を提供してもらいたい。また、地域とのつながりもこれから重要である。</p> <p>(2) これまでリーダーシップを取った経験のない生徒が多く、生徒会で話し合いの活動を持ち、自分の意見を発表する場を設ける必要がある。また、ボランティア活動への積極的な参加も必要である。</p> <p>(3) 生徒たちの自己肯定感があまりないことから、外部講師を呼び、生徒たちに夢を持たせるような講話を行ったらどうか。例えばいろいろな職業人を呼び、生徒たちに目標を持たせてもらいたい。</p>

5 総合評価
<p>(1) 湧心館高校に入学して良かったと思う生徒の割合について、1年生が大きく下がっている。原因を分析し、次年度の1年生への対策に活かしてもらいたい。</p> <p>(2) いじめ問題については、特に深刻な事案は発生していないが、引き続き細心の注意を持って対処してもらいたい。</p> <p>(3) 授業を参観したが、生徒の特性を踏まえると、口頭だけの説明では不十分である。わかる教材を使用し、補助用プリントを準備したり、レポートを出させるなどの工夫がほしい。1年間テーマを与え、文化祭などで生徒に発表させたらどうか。</p> <p>(4) 今年度は時間を守る取組に力を入れており、昨年度に比べ遅刻者が減少している。各種アンケート調査等でもあいさつをする子が増えるなど、明るく学校生活に取り組む生徒が見られる。</p>

6 次年度への課題・改善方策
<p>(1) アクティブ・ラーニングの一層の推進を図るために、公開授業週間に近隣小中学校にも案内を出し参加者に授業の感想をいただくなどして、授業の活性化を図りたい。</p> <p>(2) 今年度、体育大会や湧心祭（文化祭）などで生徒会によるポスター等による広報活動を行うなど生徒会活動に進展が見られた。次年度は、生徒総会等の場で生徒の意見を表明する機会を設け、生徒の主體的な運営やボランティア活動を支援するなどして、生徒会の活性化を図りたい。</p> <p>(3) 今年度「時間を守る取組」を推進し、ある程度の成果を得られた。次年度も引き続き継続し、遅刻をしない、あいさつをするなど、生徒の基本的な生活習慣の確立を目指したい。</p> <p>(4) 保護者会と連携し、情報を共有しながら、保護者会の活性化を支援する。</p> <p>(5) 「湧心館高校へ入学して良かったと思う」の質問項目で1年生の生徒の評価が低かった点について、これまで蓄積した適応指導の研究成果を踏まえ、3年間を見通したシラバスを作成し、生徒の理解を深めながら、シラバスに従ってタイムリーに必要な指導を着実に行っていきたい。</p>